

大人の 社会 見学

鹿屋の地で育まれた
名品・名産・名所などの
よかもんをご紹介します

象嵌装大刀 ぞうがんそうた



文化財PRキャラクター

ラビコくん

象嵌装大刀は、今から約1500年前の古墳時代に作られた刀で、吾平町上名の中尾地下式横穴墓群で見つかりました。今回は、文化財PRキャラクターのラビコくんに紹介してもらいました。

「象嵌装大刀は、鍔などが象嵌という技法で装飾されている刀で、県内にはこの一本しかないんだ。象嵌っていうのは、地の素材を彫って、その部分に別の材料をはめ込んで模様を作る技法で、鹿屋市で出土した刀は、



忠実に再現したレプリカ

鉄に銀がはめ込まれていたんだよ。模様はハート型に見えるけど、実は羽を広げた鳳凰という鳥を表していて、僕の目はこの模様をモチーフにしているよ。

古墳時代って、その名のとおり身分の高い人のお墓、つまり古墳が作られた時代で、普通の人はお墓を作れなかったんだ。前方後円墳という形の古墳が有名だけど、大隅半島と宮崎県の南部には、全国でもここにしかない、地下式横穴墓というお墓があったんだよ。これは土を盛るんじゃなく、地下に空洞を作って埋葬する方法なんだ。

象嵌装大刀は、この地下式横穴墓の一つから出土したんだけど、地下式横穴墓は限られた地域にある独特なお墓だから、それまでは前方後円墳などより身分が低い人たちが埋葬されたと考えられてきたんだ。でも象嵌の飾りがついたものは、作るのも大変だし、誰でも持てるものじゃなかったから、従来の考え方はおかしいんじゃないかというところになったんだ。

古墳を作るといって社会のルールの中で、それに従わずに独特なお墓を作り、さらに貴重な品物が遺体と一緒に納められていたということから、ここに相当な権力を持った人がいたことがわかったんだよ。

象嵌装大刀は、現在串良ふれあいセンター内の串良歴史民俗資料室に展示しているよ。実際に見て太古のロマンに思いを馳せてみてね〜」



象嵌装大刀と一緒に出土した出土品